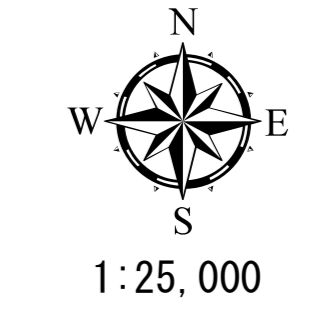
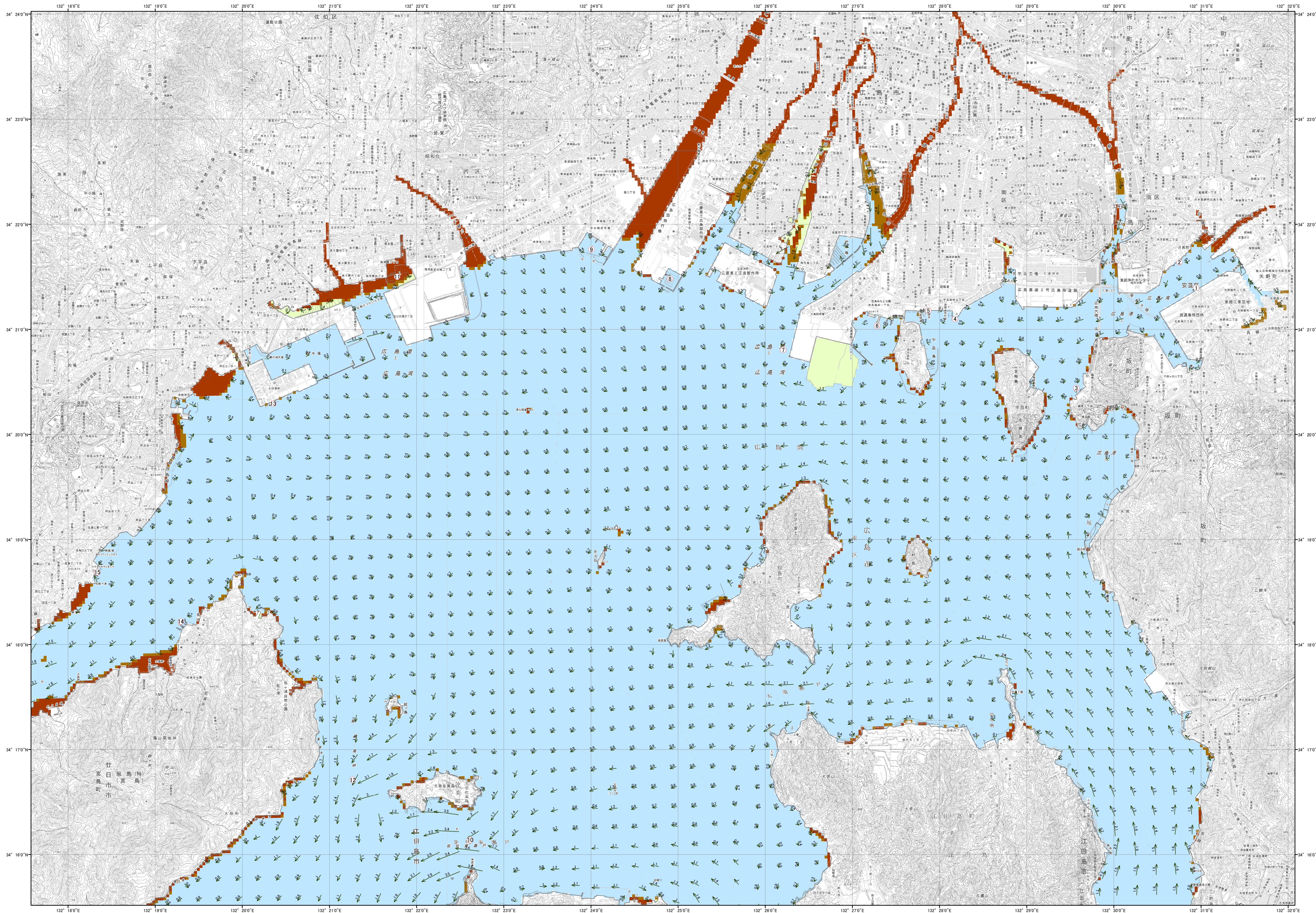


広島港 津波防災情報図(引潮図)

計算条件：最低水面（零位）
 隆起量：平均 -0.09m(-0.14m ~ 0.01m)
 Z₀：2.00m
 備考：本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。



座標系：メルカトル図法
 測地系：世界測地系 (WGS84)

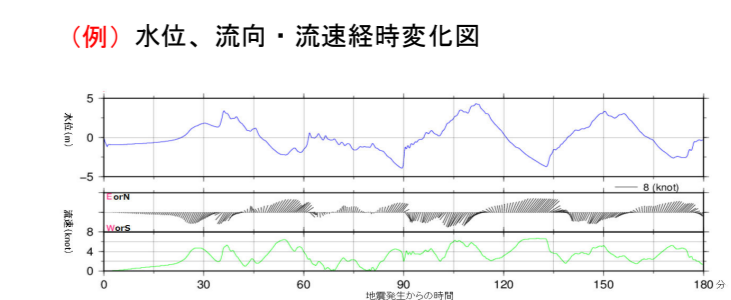


凡例

最大水位低下

- 0.5~最大1.1m
- 0.5未満
- 露出域
- 干出域

経時変化図出力点
 (図上の位置における津波の変動を列図の経時変化図です。)

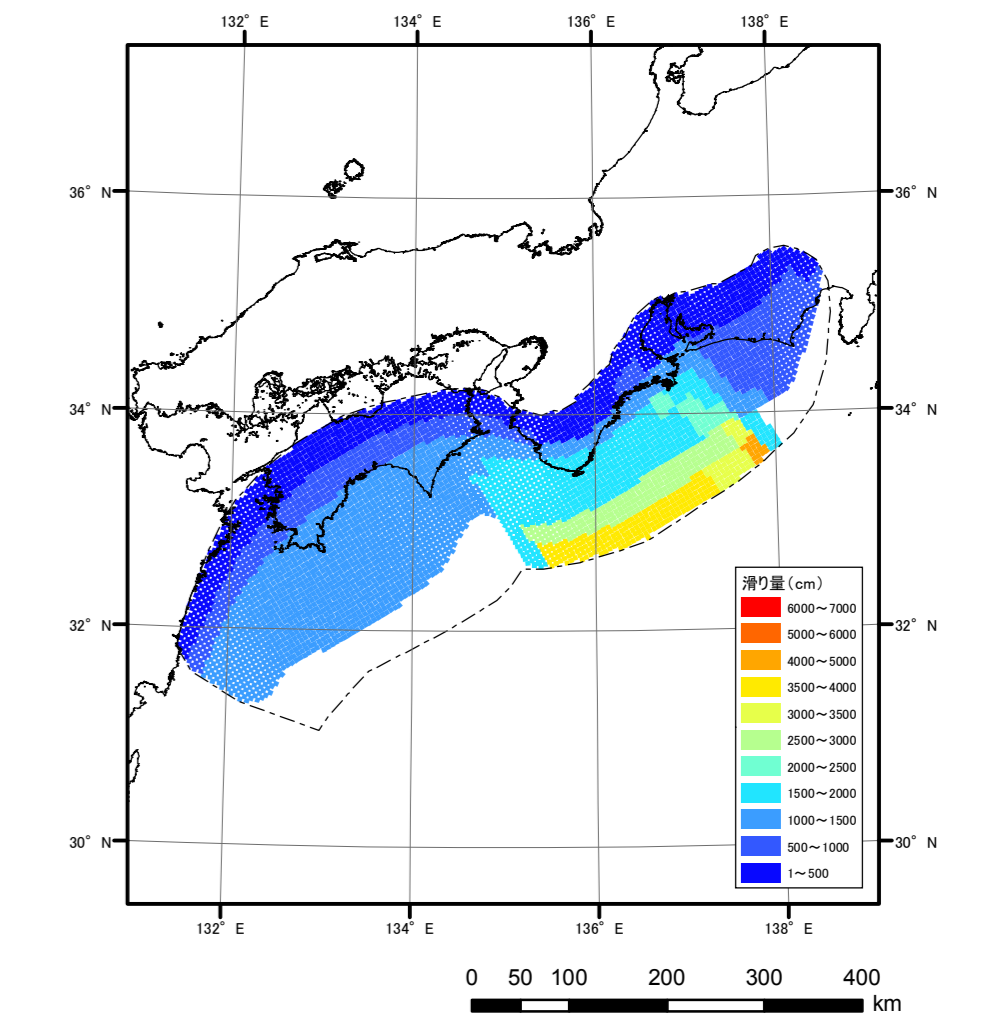


引潮時最大流 (knot)

- 3 knot
- 2 knot
- 1 knot

○ 防護施設は、津波の越流と同時に破壊されるものとして計算している。

断面モデル



ケース②「紀伊半島沖に『大すべり域+超大すべり域』」

断面面積 S(km ²)	140,000
地震モーメント M ₀ (N·m)	6.3 × 10 ²²
平均すべり量 D (m)	10.7
モーメントマグニチュード Mw	9.1

本断面モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日発表）」により公表されたものである。
 採用した断面モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、本図の区域において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。

○ 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10 対応)」を使用した。
 ○ 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。
 ・海上保安庁が保有する水深データ
 ・基礎地図情報メッシュ (標高)・10mメッシュ (標高)、及び数値地図25000 (地図画像) (国土院発行 国土院院長承認 承認番号 平24情使、第911号 平成25年3月29日)

